イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　173号

「キリストの弟子とは」

マタイの福音書　4：18～22

植草　榮一

古い書物によると、ユダヤでは、ラビ（教師）から声を掛けて弟子にすると言う習慣がなかった様で、弟子の方から師を選んだ様です。この場面は逆でイエスご自身から声を掛けておられます。そして弟子になると言うことは、余程の覚悟が必要だった様です。先ず弟子になるには家を離れて、仕事を辞めなければなりません。そして一日中、師と一緒に徒歩で旅をしながら、学びつつ、ある時には働き、旧約聖書に就いて語り合い聖句を覚え、師の教えを日々自分の生活の一部にしていました。そして大切な使命として、歩く時は、師の後を常に歩くので、師の立てるほこりにまみれる。ほこりの中を歩いて、弟子は師の様になって行くそうです。イエスに声を掛けられた最初の弟子である、漁をしていた最中のペトロとアンデレ。網を繕っていたヤコブとヨハネも弟子になると言うのは、どの様なことなのか、とっくに知っていたでしょう。ですから漁の途中だったペトロもアンデレも、父の網を繕っていたヤコブとヨハネも、職業である漁師や、父も舟も捨てて従ったのでしょう。彼らは、他の弟子たちと一緒に3年半の間、イエスの後を付いて歩いていました。二千年前は、現在の様な歩きやすい道ではなく、イエスの歩く足の立てるほこりを浴びながら。彼らは時には、出過ぎや争い、傲慢になったりして、師であるイエスを嘆かせています。12弟子たちは決して、学者や知者でなく、むしろ学歴の無い人々の群れでした。「ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って」（使徒言行録4：13）。イエスはあえてその様な人々を探し出して、ご自分の弟子とされ、福音宣教の戦士にと育て上げました。勿論、それには十字架の死と復活の後、天に上げられて約束の聖霊が彼らの上に降ったからです。二十一世紀の現在の私たちも又、主イエスの弟子として神の言葉である聖書を読み、御言葉に聞き、学びつつ祈り、主の足跡を辿る日々でありたいと願います。力も知恵もなく取るに足りない私たちですが、そんな私たちを神は選んで、ご自分の民に加えて下さいました。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」ヨハネによる福音書15：16ハレルヤ

（アーク福音ミニストリー牧師）

霊想

決められた道を走り抜く

テモテⅡ　4：6～8

日本基督教団仙台青葉荘教会
牧師　島　隆三

自分も後期高齢者になる日を目前にして、晩年をどう生きるかという課題と共に、天の故郷へ帰る備えもしなければならないと思っている。

さて、今朝のみ言葉に注目したいが、使徒パウロの最晩年に獄中から書かれたというこの手紙で、パウロは自らの召される日をハッキリ自覚して、7節に、

第1に、わたしは、戦いを立派に戦い抜き、

第2に、決められた道を走り通し、

第3に、信仰を守り抜いた、と言い切る。この三点に絞ろう。

第1に、戦いを立派に戦い抜く。

パウロはコリントの手紙で、伝道の生涯に出会った数々の苦難について述べている。

「苦労したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、…」（Ⅱコリント11：23以下）「投獄されたこともずっと多く」とあるが、私の恩師の伊藤馨牧師は、ホーリネス弾圧で投獄された牧師の中では一番長く、三年四ヶ月獄中にあった。しかも北海道の拘置所や刑務所での寒さとの戦いは容易ではなかった。良く生還できたと思う。

投獄年数から言えば、中国の伝道者は桁違いで、共産主義革命の後、20数年獄中にあった人も多いと聞いているが、その一人の王明道という中国屈指の霊的指導者が晩年健康を害して自宅に軟禁状態だった時、訪ねてきた香港からの新聞記者に対し、自分は牢獄において神の最も大きな業を経験した。それは「神の訓練」だったと言っている。私はそれを読んで衝撃を受けた。「神の訓練」ということをそんな重大なことと考えていなかったからだ。アシュラムもみ言葉への聴従の訓練の一つと私は受け止めている。

第2に、決められた道を走り通す。

昨年私は按手礼を受けて正教師になり、ちょうど40年になった。それを記念して札幌にいる甥がホームページに載った私たちの教会の週報短文からいくつかを選び、牧会エッセイとしてまとめてくれた。それに2、3の雑文をつけ加えて『この道を歩む』という題で、いわば「自分史」のつもりで出版した。この40年は教団紛争に翻弄された「荒野の40年」という面もあったが、最後に神は第二の母教会である仙台青葉荘教会へ導いてくださり、青年時代に一緒に過ごした仲間たちのところに帰ることを許されてホッとしていた。ところが2年半前に東日本大震災が起きた。牧師人生の最後がこの大震災かと思わされた。私たちの教会が、教区救援センターや超教派の東北ヘルプ等の事務所があるエマオ館の隣りということもあり、いろいろ救援との関わりや集会が多く、ボランティアの受け入れも今日まで続いてきた。やや疲れを覚えていた時、「そろそろお前も、もう良いのではないか」という神のご配慮で、今この地を去る準備をしている。しかし、主に召されたお互いは、パウロのように「決められた道を走りとおした」と言うことが許されるまで、走り続けねばならない。

第3は、信仰を守り抜く、ということ。

パウロでさえ「信仰を守り通した」と言っていることに注目すべきだ。パウロなら当然ではないかと私たちは思いやすいが、しかし、使徒には激しいサタンの攻撃もあった。だから、コリントの手紙では「自分の体を打ちたたいて服従させる」と言っている。また繰り返して、私のために祈って下さいと兄弟姉妹に祈りを要請している。

「主よ、終わりまで仕えまつらん」（讃美歌338）の讃美歌のとおり、私たちも最後まで信仰を守り抜くということがどんなに大事であろうかと思う。人生最大の事業と言えるのではないか。み国に凱旋するその時まで、地上の馳せ場を走り抜くお互いでありたい。

第48回九州アシュラム報告

鮫島　則雄

地区委員長が鍋倉勲師から岡山敦彦師に引き継がれて最初のアシュラムとなりました。

会場は例年通り福岡『黙想の家』でした。

今回の参加者は21名、昨年参加された佐世保地区の方々が地区の行事で出席できなくなり、どうなることやらと心配しましたが、以前参加された方がご自分の教会の方を誘って、また「アシュラムに参加したいのですが」と声をかけていただいた方が教会の2名の方を誘って参加され、ほぼ例年並みの参加となったことを心から感謝します。

岡山新委員長のもとでの最初の助言者は前委員長の鍋倉勲師と相成

りました。

ただ当初の主題「神の国を受け継ぐ者として」が「主の選びとその使命に生きる」に変更となりました。師が祈り準備されていく中で主からの促しがあったのでしょう。

実際、「福音の時」のメッセージを聞いていく中で「アーメン」と頷いた事でした。

鍋倉師からのメッセージは「主の選び」に関して、人生における数々の出会いから生まれるドラマを、ご自身の半生において示された主の恵みをたっぷりと証ししていただきました。

鍋倉師は永年苦楽を共にされた夏海夫人を6年前に天国に送られ、それ以来教会の姉妹方が折に触れてお世話をされていたのですが、昨年の11月、ご縁のあった京子夫人と八十路にして再婚されたのです。

そのお二人の出会いと選びを、師の教育学と哲学博士の賜物を発揮され、旧約聖書における信仰の父アブラハムの再婚を例にあげて深く検証し、分かち合って下さいました。

私たちも今、主のご計画の中で選ばれ、その召しに応えてキリスト者となっていますが、鍋倉師のメッセージを聞いていく中で、改めて自分たちの物差しではなく、永遠の命の場であまねく全世界を見渡しておられる神の摂理の中に生かされていることを実感させられました。

今一度主から選ばれた霊のイスラエル民としての自覚を持って生きることの大切さを思わされました。

過去の出会いも、これからの出会いもすべて主にあって大切にして日々を生きることも教えられました。そして今の自分に与えられている使命は何かを絶えず吟味しながら、背伸びすることなく地に足のついた奉仕を其々が所属する教会で継続していくことを再確認できました。来年はさらに多くの方々の参加を期待しながら大いなる感謝の内に、黙想の家を後にしました。

（事務局長　門司港キリスト教会牧師）

第47回関西アシュラム報告

脇田　眞一

二〇一三年九月二二日（日）午後三時～二三日（月・祝）午後二時まで、神戸市東灘区御影町の「母の家ベテル」で、第四七回関西アシュラムが開催された。参加は十三教会、二九名（信徒十八名、教職十一名）であった。主題は「神の国の体験と献身」、主題聖句は「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。」（ロマ一四章十七節）と「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」（マタイ六章三三節）である。

二二日（日）の「開会の祈り」は小島十二師が担当し、「開心の時」は清水潔師が担当した。今回は特別に助言者として工藤弘雄師（日本イエス・キリスト教団香登教会主管牧師）を招き、同師が「福音の時」と二三日の「充満の時」を担当してくださった。また、二三日の「朝の祈り」は工藤須美子師が担当し、「静聴・分かち合い」は、平方美代子師が担当予定であったが、休まれたので、清水潔師が担当した。

助言者は「福音の時」に、使徒一：一～十一、ヨハネ一四：二六、使徒五：三二、一五：八～九を引用し、イエス様に代わって、聖霊が私達を教え、導かれることを力強く、話された。「充満の時」には、エステルは「我もし死ぬべくば死ぬべし」と覚悟し（エステル四：一三～一六）、マリアは「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」と告白し、イエス様は「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってくだ

さい。」（ルカ二二：四二）と言われた。これ等の事はすべて、一、自分に対する神のご計画は何か。二、神にすべてを明け渡す（創世記四三：一四）ことを最も大切にすることから来ている。私達の信仰もこの事が極めて重要である。

また、「朝の祈り」では、自らの生い立ち、信仰生活の成長について、聖霊によって生活する毎日を与えられた御言葉と共に証しされた。助言者の信仰と伝道者養成に長年携わって来られた経験に基づき、深い信仰の糧と励ましを戴いた。来年もぜひ参加したいとの声もあり、全国の主にある兄弟姉妹のお祈りに感謝します。

第20回日本クリスチャンアシュラム連盟理事会

報告　横山　義孝

「第20回定期理事会は6月20㈭～21㈮池の上教会で開催。出席者理事10名、傍席者3の13名でした。」

（Ⅰ）午後5～6時同教会のチャペルにて開会ディボーションを木部安来理事によって持たれ、（Ⅱ）6～7時地下ホールで夕食（弁当）。（Ⅲ）7～9時安藤脩理事によってセミナーに入りました。同理事がE・スタンレージョーンズ著の「神の然り・（キリストに明け渡した人生）」を紹介しつつスタンレーアシュラムの霊的精神について以下の項目に沿って所信を述べられた。①「イエスは神の然りである」②「彼が神に対する然りである」③「人間性は改変されるという然りである」④主は「聖霊の充満に対して然りである」等。所信をめぐって意見交換の時を持ち、スタンレーアシュラムの基本はキリストへの明け渡しと服従にあることを確認する事が出来良き学びとなった。第一日を終了して駅前ホテルにて泊。

第2日は（Ⅳ）午前9～9・30「静聴の時」清水理事によってエフエソ書一章1～23節を静聴し分かち合い。（Ⅴ）9・30～12・00議事（1）①前回記録事項確認の件（木部理事が記録朗読）を承認（2）各種報告事項確認の件①各地区報告　函館栄光ミニアシュラム（佐々木理事）東北アシュム（島理事）関東アシュラム（安藤理事）関西アシュラム（小島理事）九州アシュラム（鮫島理事）文書或は口頭をもって報告された。続いて②横山理事長活動報告並常任理事会報告、又③石井寛主事より事務局報告（日本アシュラム誌の印刷発送、函館栄光アシュラムへの助言者派遣）と過去2年間の会計報告がなされ、質疑応答の後承認されました。（3）日本クリスチャンアシュラム連盟六十周年記念誌編纂発行の件が上程され理事長によって別紙により「連盟六十年記念誌構想」案が提示されて検討にはいりました。主に以下の点の意見がありました。（イ）題について一個人の魂の霊性に仕える点を考慮する必要がある。（ロ）E・ジョンズ師のメッセージに「日々の勝利」Ⅰ、Ⅱを加える。（ハ）国際アシュラムの項はグラビヤを紹介する。（ニ）「日本アシュラムの足跡」にはa「アシュラムの恵」（山根可一師）b「御国を来たらせ給え」（タイタス著、植村訳）c「神の漁り人」（飯島延浩、庸江訳）d「アシュラムの歌」を入れる。（ホ）「近江」アシュラムセンターの働きを紹介したいので、何らかの形に於いて投稿してもらうよう折衝する。以上の諸提案にたいして意見交換、協議の結果本記念誌編纂発行の件を一同承認。（4）次に理事改選の件が上程され以下の各地理事が再任された。理事長・横山義孝、副理事長・清水　潔（関西）、書記・木部安来、常任理事・有馬歳弘・安藤脩、各地区選出理事・九州：岡山敦彦（長）、鍋倉勲、鮫島則雄、関西：小島十二（長）、辻中昭一、推薦理事・飯島庸江（関東）、金武士（関西）、島隆三（東北）、佐々木雄次（函館）、唐渡　弘（四国）以上十五名。（敬称略）

地区アシュラム予告

●第43回城北アシュラム

と　き　'14年2月11㈫
午前10時～午後4時45分

ところ　新宿西教会

●第21回東京新生教会アシュラム

と　き　'14年2月22㈯～23日㈰

助言者　横山基生

〒一八一－〇〇一一　三鷹市井口3－15－6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇一〇〇－一－四五五八